

## 平成30年度第2回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会 議事録

■開催日時 平成30年12月19日(水)

午後2時～午後3時50分

■開催場所 市役所本庁舎2階 第1委員会室

■出席者 (敬称略)

### 【委員】

辻本 勝久(和歌山大学)、大森 秀俊(伊賀市副市長)、金口 正幸  
(近畿日本鉄道株 代理 森内 諒)、藤巻 恵(伊賀鉄道株 代理  
坂本 充)、仲 範和(三重交通株) 福田 政幸(三重交通労働組合)、  
四辻 純也(中部運輸局 代理 岩井 亜弓)、久世 真(中部運輸局三  
重運輸支局 代理 伊藤 繁明)、梶田 充代(伊賀警察署交通課 代理  
小川 正浩)、吉川 行洋(三重県地域連携部交通政策課)、福田 勝許  
(三重県伊賀建設事務所)、奥澤 重久(市民公募)、天満 雅世(市民  
公募)、前山 正清(市民公募)、堀田 大(いが移動送迎連絡会)、  
福澤 正志(伊賀市障害者福祉連盟)、宮崎 寿(伊賀市企画振興部長)

### 【神戸地区地域運行バス(かんべ北斗号)運営協議会】

会長 中嶋 孝、副会長 福井 清孝

### 【事務局】

交通政策課 福岡、吉岡、坂森、吉福  
各支所振興課長、課員

■傍聴人：1人

### ■会議概要

#### 1. 開会

交通政策課長 福岡

#### 会長あいさつ

皆さん、こんにちは。お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。今日も伊賀線に来て、サイクルトレインを実際に利用している人を初めて見た。

公共交通はいろいろな役割を持っているが、その中で免許を持たない若い人の夢へのアクセス手段としての役割も果たす。サッカー日本代表の山口蛍選手は、大阪のユース時代、近鉄線が無ければ通うことができなかった。勉

強したい、スポーツをしたい、そういった可能性をつかむため交通機関を維持していかなければいけない。今日の議題を見ましても、阿山行政サービス巡回車、あるいはそれに接続する三重交通玉滝線等々、伊賀市の地域の公共交通の活性化は、若い人だけでなくいろいろな人たちに活躍の機会、外出の機会を与えるものだ。今日も活発にご議論に参加いただけましたら幸いに存じます。

## 2. 協議事項

- (1) 神戸地区地域運行バスの運行計画の変更について  
事務局から資料1に基づき説明。

### 【質疑応答】

委員	利用者の皆さんにとって利便性があるといいことと思う。運転手の教育や事故等の連絡体制について教えてほしい。
事務局	フリー乗降の導入にあたっては、運営協議会とバス運行事業者に事前に、安全面等について協議を行っていただいている。交通量の多い国道部分についてはフリー乗降区間から省いてもらっている。住民の皆さんに対し、時間をかけて制度の周知を徹底し、安全確保に努めていただく。
委員	実際にバスに乗って確認しているのか。
中嶋会長	利用者さんから、家の近くに停まってほしいというご要望が多数運転士に寄せられているので、今回フリー乗降の検討を行っている。運営協議会の役員はすべてバスに試乗し、また実際にバスに乗っている。警察さんからは国道422号は絶対だめだと言っていており、それ以外の区間で今回提案をさせていただいている。事前に公安委員会、三重県、市とも協議させていただいた。
会長	警察さんからアドバイス等ございますか。
委員 (伊賀警察署)	実際にうちの署員がバスの真後ろを走って、問題がないと確認している。特に問題ないという結論になっているので、進めていただければと思う。
委員	こういったことが実施されれば、他へも波及すると思う。とてもいいことだと思うので、他へも波及させるときにいい経験、いい材料として提供いただければと思う。
委員	道路交通法がわかっていない、あるいは免許を持っていないという人が適当なところで手をあげてバスを止めようとしたり、変なところでバスが停まって、事故が起きたりとかいったことが起

	こらないか。住民に対しての教育を地域としてやっていく必要があるのではないか。
中嶋会長	<p>広報活動を徹底したい。1月から3月の期間を使って、全戸配布の広報かんべへ記載したり、時刻表の再度配布を行ったりして周知をしたい。</p> <p>運転士にも教育しながら、住民の方へは広いところで手をあげてくださいと周知をしていく。</p>
会長	正しいフリー乗降の仕方を周知していただきたい。

【承認】

(2) 廃止代替バス諏訪線のコース変更について  
事務局から資料2に基づき説明。

【質疑応答】

委員	3停留所が廃止されるが、今まで利用されていた方のご意見をどのように聞いたか。また、行政としてどう説明したのか。
事務局	音羽地区と三田住民自治協議会にお話をさせていただきました。音羽口バス停は、1週間乗降調査を行った中ではお一人程度のご利用でした。音羽地区とお話しさせていただいたときも、集落からバス停まで山道を1.5kmほど歩くので、地区としてはほとんど利用は無いだろうから、バス停がなくなっても致し方がないというお話でした。三田住民自治協議会につきましても、神社前停留所から直近のバス停まで450mほどであること、また前田教育会館前へバス停を新たに設けますので、前田教育会館エリアの方も利用しやすいだろうということもおっしゃっていただき、ご了承いただいたところでございます。

【承認】

(3) 阿山行政サービス巡回車のダイヤ改正等について  
事務局から資料3に基づき説明。

【質疑応答】

委員（三重県交通	補足をさせていただきたい。地域間幹線の中で利用状況がおもわしくないと利用促進対策路線の指定を受ける。伊賀地区では、玉
----------	--

政策課)	滝線、阿波線が利用促進対策路線となっている。利用が伸びず、他地域では廃止したところもある。路線を育てて残すという思いで取り組んでいただきたいと考えている。アンケート資料の8ページに、車に乗らなくなったら行政バスを使いたいという意見が書かれている。私も他の地域の会議に出ているが、車に乗るよりバスに乗るほうが、乗り継ぎ等もあり難しいのではないかと思う。周知とか高齢者対象のバスの乗り方教室も含めて、対策をしていただくのがいいのかと思う。
会長	育てて残すという方向でがんばっていただきたいと思う。資料の7ページで、スーパーへの乗り入れや三重交通バスとの接続時間短縮を実施しているのに知らない人がいる。これまでと同じ方法でなく、今一度周知を徹底していただきたい。
事務局	使っていただいている方にも、もっと周知をしていきたいと思えます。
委員	阿山で滋賀に近い人は、病院も買い物も滋賀へ行かれる方が多い。この辺は公共交通の最も不便な地域と思うが、そういう中での行政バスはたいへん大事だと思う。便利に利用できるような施策をつくっていただければと思う。
事務局	周知の方法として各戸への案内の送付を行うが、高齢の方が集まる機会等で周知できればと思っております。
委員	阿山の槇山のあたりは距離的にも滋賀に近い。行政バスに乗って上野へ行くよりも、滋賀へいくほうが楽だ。本音のところを聞いて、活性化を進めていかなければならないと思う。 アンケートの資料で、岩瀬ハイツは何も書いていないが回答がゼロだったということか。
事務局	岩瀬ハイツは、川合地区とあわせて回収しましたので、川合地区の中に含まれています。
会長	この件、玉滝線と関係が深いと思うが、三重交通さん何かありますか。
委員（三重交通）	高校生の利用が減少しているということ、また利用促進対策路線に指定されたということで、皆様と調整させていただきながら、より利用しやすいようにさせていただきたい。
委員	ダイヤ改正のターゲットは高校生ということだが、アンケート3-D中の、家族・知人の送迎を利用する12%をターゲットにしているのか。
事務局	おっしゃっていただいているように、鉄道駅まで送迎してもら

	っている人たちに使っていただけるようにするため改正します。
委員	ダイヤ改正したら使いますか、というアンケートは取ったか。
事務局	取っていない。今後機会がありましたら、利用について調査をしたい。
会長	ご意見いただいた内容について、今後に生かしていただきたい。アンケートの7ページは複数回答か。もしそうであれば、円グラフは使わない。棒グラフでまとめていただきたい。
事務局	了解しました。

【承認】

- (4) 青山行政バスのバス停追加について  
事務局から資料4に基づき説明。

【質疑応答】

なし

【承認】

3. 報告事項

- (1) 当再生協議会での質問に対する回答  
事務局から資料5に基づき説明。

【質疑応答】

委員	神戸地区では地域運行バスの運行が始まったが、他の地区はどうか。
事務局	市内2地区に手法等、ご説明にあがっています。他にも内容について聞いていただいたところがあります。呼んでいただいたら、いつでもご説明にあがらせていただきますとお伝えしています。ルート等検討していく中、アンケート調査等もしていきたいということも聞いております。
委員	広く打診しているのか。それとも言ってきたところだけに説明するのか。
事務局	今年2月にガイドラインを策定して、各住民自治協議会等を通じて各地域へご説明にあがっています。その後、地域の役員が交代されて詳細がわからないということがあれば、ご説明にあがるとお伝えしています。

委員	来年度からのアンケート調査は盛り込まれていないのか。
事務局	神戸は2回アンケートを取られている。1回目は何が必要かということ。買い物に対して不便であるという声が多く、買い物に特化したルート設定がされています。その後、ルート設定や時刻設定をした後、本当に乗るのかというアンケート調査を2回目としてされていて、各地域の課題と本当に乗るかどうかについてアンケートを取られている。説明で申し上げたアンケートは、2020年に終わる交通網形成計画の変更について、どういった状況であるか、どういう思いを持たれているのかといった内容を伺うことを考えています。
委員	1の回答で、福祉的な割引制度について、身体障害者手帳等の所持者とあるが、手帳の級は関係なく割引があるのか。
事務局	これまで、福祉の制度でタクシーチケットかガソリンチケットを選択することができたが、その選択肢の一つとして伊賀鉄道の手ケットを選択できるようになります。制度の対象が重度の障がいがある方ですので、詳細を失念しておりますが、身体障害者手帳は1級、2級、精神保健福祉手帳は1級、療育手帳はAの方が対象になっていたかと思えます。
委員	要介護認定3以上を受けていると、税法上の措置を受けられる制度があったと思う。そういうのとは連動しているわけではないのですね。要介護度のみで手帳を取っていない方もいると思う。
事務局	今回の伊賀鉄道の割引は、手帳の制度に基づいて実施しますので、要介護度で見させていただくという予定はしていないのが現状でございます。
委員	ちょっと納得いかない面もあるが、そのようになっているということですね。わかりました。
会長	福祉制度による割引の話でしたが、障害者福祉連盟の会長さんのほうから何かございますか。
委員（障害者福祉連盟）	今、話のあったように、手帳の級によって割引制度があると聞いております。
委員（中部運輸局）	網形成計画を作られると自治体から中部運輸局へ提出いただき、それを東京の国土交通省の本省へ送らせていただくという手続きを取っている。当初に網計画を策定して、2期計画を作りたいということで動き出している自治体が結構ある。新しい計画を作るにあたって新しい目標を設定すると思うが、今ある目標に対す

	る施策でできているもの、できていないものがあるかと思うので、そちらのほうの整理もしていただいたほうがいいかと思う。
事務局	ありがとうございます。現状の整理をしながら進めてまいりたいと思いますので、ご指導のほどよろしく申し上げます。庁舎移転が1月にございますし、支所のあり方についての検討委員会もございますので、公共施設のあり方等も含めて先を見た交通網形成計画の2期計画を考えていきたいと思っています。
委員	市民の利用だけではバス利用に限界があると思うので、観光面もがんばっていただきたいと思う。
事務局	人口減少もあり、バスの利用率は下がってきています。そのような中、インバウンド向けの観光施策と合わせて、少しでも乗っていただけるように施策を進めてまいりたいと思います。今年度12月補正に入れましたが、三重県交通政策課からバスロケーションシステムの導入についてお声掛けをいただきました。しらさぎに機器を取付け、携帯のアプリで今バスがどこに来ているか等確認いただけるシステムとなっています。そこに市内の観光情報を入れて、観光の情報も外向きに発信することで力を入れてまいりたいと思います。
会長	観光に関連して、今日配っていただいたしらさぎの路線図はお城等載っていない。これは路線図ドットコム の地図をそのまま載せているようだが、改善はできないか。
事務局	路線図ドットコム の了解をいただいて、引用させてもらっています。まずは、市民の方に乗っていただきたいということで、路線を強調した提示の仕方になっています。確認して、観光の切り口で出していけるツールがあれば、芭蕉の生誕地でもありますし、忍者、お城等多々ございますので、そういった視点も盛り込んでいければと思います。
会長	観光の情報を盛り込むとともに、観光客向けにふりがなとか、多言語化もゆくゆくは考えていただきたい。
事務局	今いただいたご指摘も含めて、インバウンドもございますし、いろいろな面で考えていきたいと思っています。

## (2) 上野コミュニティバス「しらさぎ」のコース修正等について

### 事務局から時刻表及び路線図に基づき説明

- ・ 前回協議会での提出案より、若干時刻の修正を行うこと。
- ・ アピタ伊賀上野店での乗降時安全確保のため、店舗付近を周回するルー

ト設定を行うこと。

【質疑応答】

委員（三重交通）	質問ではないのですが、バスを運行させていただいている事業者としまして申し上げます。説明にもありましたように、準備をしていく中で気付いたことで、たいへん申し訳なく思っております。ご利用いただく方の安全確保と利便性の向上といった観点からご理解をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。
----------	---

(3) 前回協議会以降に進めている施策について  
事務局から資料6に基づき説明。

【質疑応答】

委員	伊賀鉄道はIC化できないのか。
委員（伊賀鉄道）	IC化についてはご利用いただく皆様や市民の皆様からご要望をいただいておりますが、コスト的な面と他社との兼ね合い、システムとの兼ね合いもありまして、長期的な課題としてはとらえていますが、近いうちの実施は難しいと考えています。
委員	IC化したら、コストは上がるのか。
委員（伊賀鉄道）	導入費用はもちろんです、伊賀鉄道は無人駅が多いので無人駅設置の場合の管理等課題もございまして、要望として重く受け止めておりますが、すぐにIC化できるという状況にないのが現状です。
委員	ずばり言うと、経費が多くなるということか。
委員（伊賀鉄道）	ICカードは全国で導入しているので、乗継、連絡といった他社との調整も必要で、調整するコストも含めて費用的に厳しいところがあります。ICの機械を置くだけでなく、近鉄やJRとの乗継をどうするか、無人駅での管理をどうするか、課題を解決しないといけない。導入したいという気持ちはありますが、要望があるからすぐにIC化できるというわけでもなく、長期の課題として検討しておりますので、ご了承お願いしたいと思います。
委員	インバウンドの話があったが、外国から観光客を迎え入れるのであれば、やはりIC化したり電子マネーといったことが効果的だと思う。
委員（伊賀鉄道）	IC化につきましては、まずは課題、コスト的なところ等いろいろ

賀鉄道)	るな部分を解決しながら前向きに検討していきますので、ご理解いただきたいと思います。
会長	国のほうでローカル鉄道向けのＩＣ化を支援するような制度はお考えでしょうか。
委員（中部運輸局）	訪日外国人向けの補助金の制度はありまして、そちらのほうでＩＣカードの導入の補助はありますが、補助を出せるのが導入の部分のコストだけで、運営していくランニングコストや更新の費用には補助がありません。中部運輸局管内でも、ＩＣカードを入れていない事業者さんもありますし、他社との調整が難しいということで一步を踏み出せないところがあります。そのあたりも課題を解決しながら前向きに取り組んでいただけたらと思っています。
会長	ＩＣの機器をすべての駅に入れなくても、ＪＲさんがしているように主要駅や車両に入れたりすることもできると思うので、そういったあたりの情報提供もお願いします。

#### 4. その他

会長	今日予定していた協議事項、報告事項すべて完了いたしましたので、せっかくの機会ですので何かございましたらお願いします。
委員（伊賀警察署）	運転免許の自主返納の制度が変わります。1月7日（月）から代理申請ができるようになります。代理の場合は所定の様式による委任状が要ります。様式は警察署へ取りに来ていただくか、ホームページに掲載していますので、そちらへ書いていただきます。また、大型、普通、二輪の免許を持っていて、二輪だけ残すということも可能ですが、代理申請していただく場合、返納してもらう種別はすべてとなります。経歴証明書の発行も可能となります。その場合は、免許と同じように写真を持ってきていただく必要があります。料金については、1,100円が変わりありません。後日発行になり、あとでお渡しすることになります。残念ながら全国でいちばん最後だったのですが、1月7日から制度が変わりますのでご報告させていただきます。

(以上)